

カザフスタンのヒバクシャ



なぜ? どうして?

● ソ連時代、カザフスタンでは核実験が繰り返された。当時はソ連と米国が冷戦。競うように核兵器開発を進めていたんだ

キーワード

セミパラチンスク核実験場…旧ソ連最大の核実験場。広さは四国とほぼ同じ約1万8500平方*。1949年から89年まで、450回を超す核実験が行われた冷戦…第2次世界大戦後、米国を中心とした資本主義の国々と、旧ソ連を中心とした社会主義の国々が、競争には至らない厳しい対立を続けた。89年12月の米ソ首脳会談で冷戦の終結を宣言

核実験の影響で、住民は今でも、がんや心臓病などの健康被害に苦しんでいる。同じ核の被害を受けた被爆地広島には、支援する市民団体や若者グループがあるよ

なぜカザフスタンにヒバクシャがいるの?

ターゲット記事

広島の若者グループBCANVA S(キャンパス)は、長年繰り返された核実験で多くの被害者を生んだカザフスタンのセメイ市で、現地の大学生と一緒に平和フォーラムを開きました。ホームページを共同で作り、核兵器廃絶を訴えることを決めました。

(9月24日付朝刊19面から)

カザフスタンは、中央アジアに位置し、北はロシア、東は中国に接しています。国土は日本の約7倍の272万4900平方*。とても大きな国です。かつてはソ連の一部でしたが、1991年12月に

ソ連時代 空中・地上で多くの核実験

独立しました。

原爆が投下された広島、長崎と同じように、核兵器の被害を受けています。国内に、旧ソ連最大のセミパラチンスク核実験場があったから

ク核実験場があったからです。ソ連初の核実験も、ここで49年に実施されました。当時、ソ連と米国は冷戦中。激しく対立し、互いに軍手を強化していました。そのため、同核実験場では89年までに、核実験が450回以上も繰り返されました。うち100回以上は空中や地上で行われ、放射性物質が広範囲にばらまかれました。

2002年から毎年、現地を訪れ、約2300人の住民にアンケートした広島大平和科学研究センターの山野徳幸准教授(46)によると、爆発地点から約100*離れたとしても、光を見たり、爆風を感じたりした人が多くいました。

熱や地面の揺れを感じ、ほこりや雨を浴びたと答えた人もいます。核実験の時、家の外に出るまじに指示されたとの証言もあり、被害者の中には、人体実験だったと考えている人もいます。

住民は、核実験の放射線がどれほど危険か知らされていませんでした。そのため、水爆実験で人工的に造られた湖での水泳や、実験場内での放牧も行われていました。

こうした人たちの助けを借りたいと、被爆地広島の市民団体ヒロシマ・セミパラチンスク・プロジェクトは99年から、医師の派遣や医療機器の寄贈などで支援を続けています。若者グループのキャンパスも、現地の若者と交流し、核兵器廃絶を目指す活動に取り組んでいます。

(増田 聡子)

